

[果樹部門]

5. ナシの新梢伸長促進にジベレリンペースト剤塗布は満開後40日ごろまで効果がある

[要約]

ジベレリンペースト剤は満開後 14 日以降の塗布では時期が遅くなるほど新梢伸長促進効果が低くなる。新梢伸長促進効果が認められるのは満開後 40 日ごろまでである。

[担当] 中山間農業研究室

[連絡先] 電話 086-955-0276 (果樹研究室)

[分類] 情報

[背景・ねらい]

植物成長調整剤ジベレリンペースト剤は短果枝の新梢基部に 100mg 塗布すれば、新梢伸長の促進効果があり、側枝の更新などに利用できる技術として、満開 7 ~ 14 日後の 1 回処理が適用登録されている。そこで、満開後 14 日以降の塗布処理による新梢伸長促進効果の有無を確認する。

[成果の内容・特徴]

1. 新梢伸長促進効果は処理日が遅いほど低くなる (表 1)。
2. 満開後 40 日ごろまでの処理で新梢伸長促進効果が認められる (表 1)。

[成果の活用面・留意点]

1. ジベレリンペースト剤の満開後 14 日より遅い時期の処理は登録準備中である。
2. ジベレリンペースト剤は全花 (果) 除去した短果枝の新梢基部に塗布する。

[具体的データ]

表 1 ジベレリンペースト剤の塗布時期が新梢の生育に及ぼす影響

塗布日（満開後日数）	処理数 （n）	新梢長 （cm）	基部径 （mm）
4月25日（14）	10	69.0	9.3
5月8日（27）	11	41.3	8.0
5月22日（41）	16	25.1	9.4
6月18日（68）	12	2.8	6.7
無処理	15	1.3	7.6

注）品種は「新高」

[その他]

研究課題名：ジベレリンペースト剤によるナシの新梢伸長促進

予算区分：県単

研究期間：2009年度

研究担当者：笹邊幸男

関連情報等：1)平成18年度試験研究主要成果、49-50

2)平成19年度試験研究主要成果、25-26